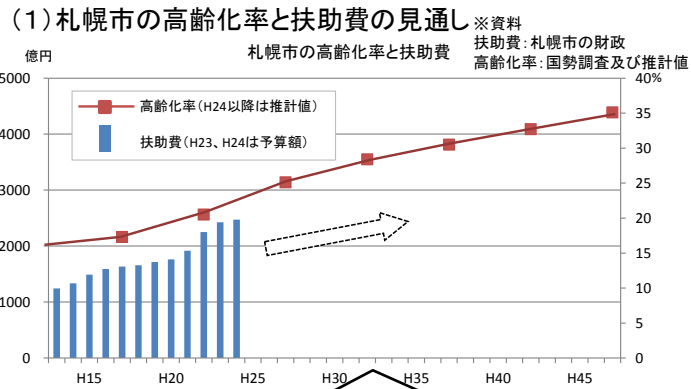
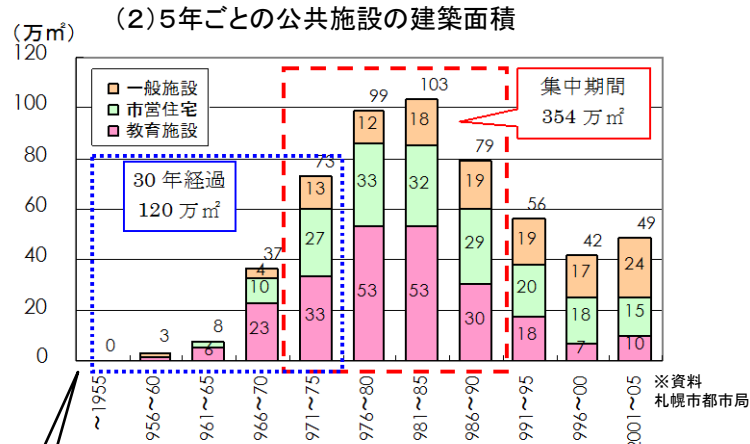


1 効率的な都市基盤などの維持・保全の必要性

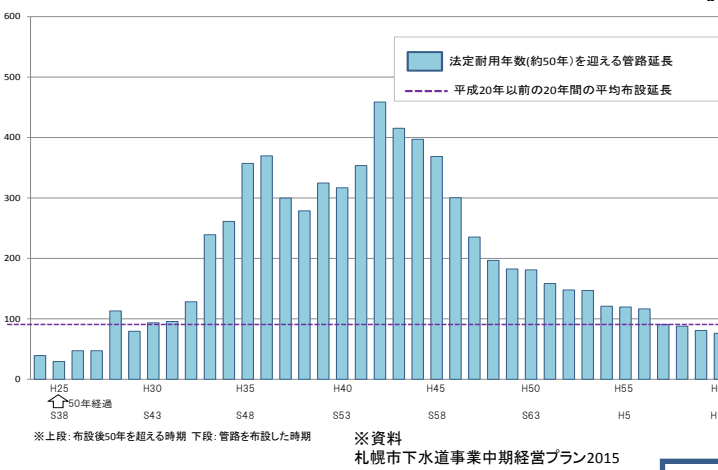


高齢化の進展に伴い、扶助費も増加していきと考えられます。

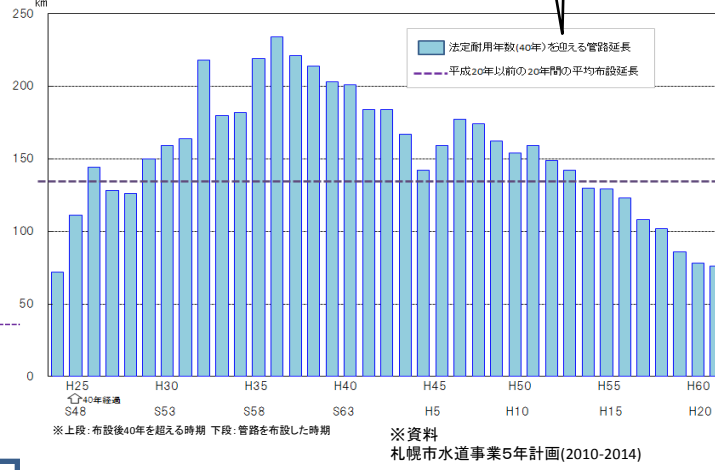


今後、拡大成長期に集中的に整備を進めた都市基盤などの更新時期が訪れます。

(3) 法定耐用年数を迎える下水道管



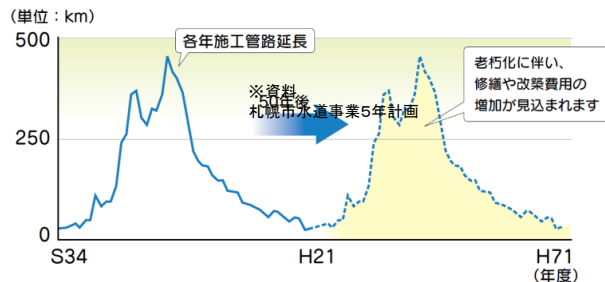
(3) 法定耐用年数を迎える水道の配管



- 扶助費の増加などにより厳しい財政状況が続くと見込まれます。
- 拡大成長期に集中的に整備を進めた都市基盤の更新時期が訪れることにより、修繕や改築費用の増加が見込まれます。

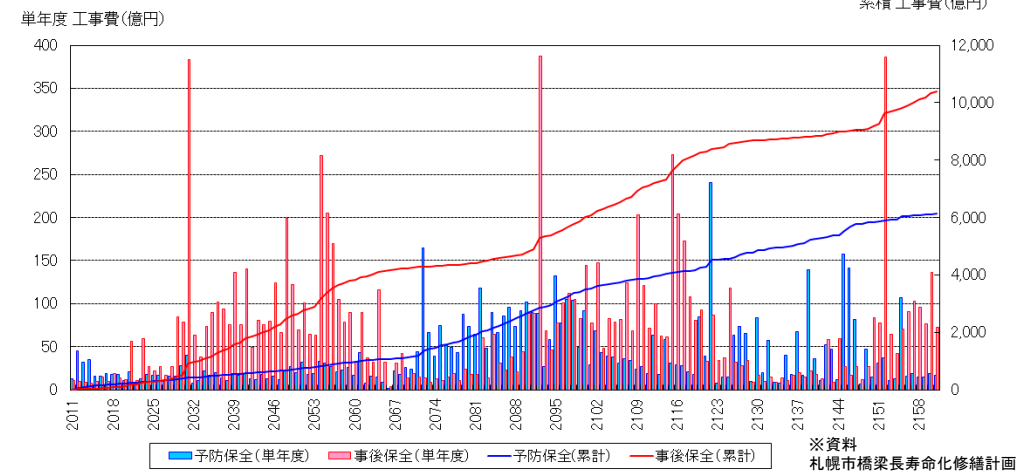
○限られた財源の中で、効果的・効率的に都市基盤を維持・保全していくための方策の検討が必要。

※水道・下水道管のグラフの考え方
これまで整備してきた管路が法定耐用年数を迎える時期を示したものです。ただし、管路については、材質の変更による管体強度の向上や管体保護技術の導入、保守点検の強化や予防的な修繕による延命化などにより、一般に法定耐用年数を超過しても直ちに管路としての性能を維持できなくなる訳ではないと考えられており、耐用年数を迎える管路の全てが更新を必要とするものではありません。



2 札幌市における都市基盤の維持・保全に関する計画

(1) 札幌市橋梁長寿命化修繕計画(H24.3策定)

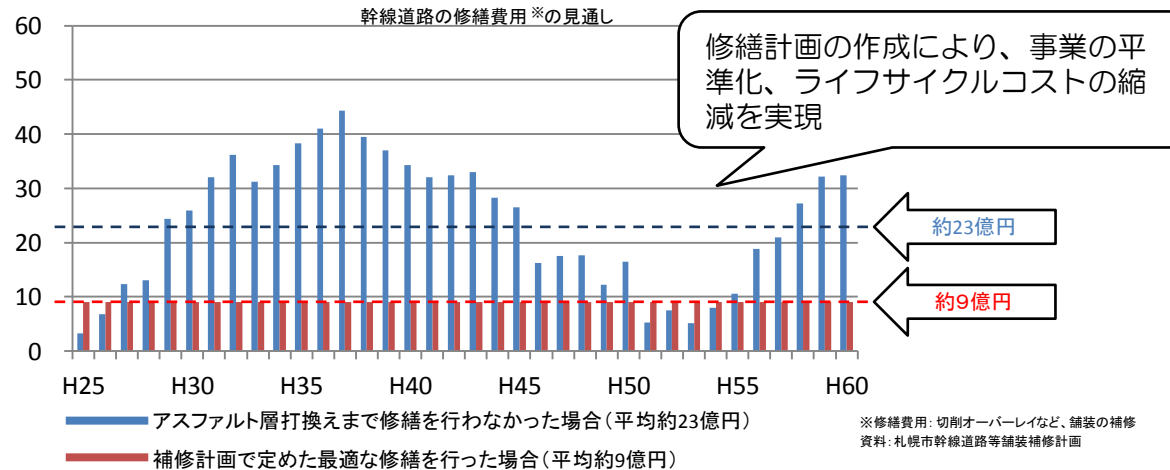


(単位：億円)

	平成60年	平成90年	平成120年
予防保全	677	1,684	3,821
事後保全	2,465	4,358	6,718
縮減額	1,788	2,674	2,896

修繕計画の作成により、従来方式による維持保全に比べ、事業の平準化、ライフサイクルコストの縮減を実現

(2) 札幌市幹線道路等舗装補修計画(H24.3策定)



修繕計画の作成により、事業の平準化、ライフサイクルコストの縮減を実現

○長期保全計画の策定により、ライフサイクルコストの縮減、事業の平準化を実現

今後の方針

- 都市基盤の効果的・効率的な維持・保全を行うため、引き続き長期的な保全計画などを検討・作成する。
- 検討にあたっては、施設の複合化・集約化などにより効率化を図ることや、将来的な人口規模や財政状況を見据えながら、適切な手法を検討する。